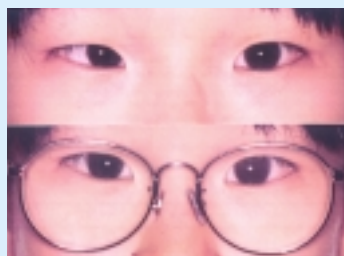


斜視について

斜視は大まかに言うと視線が一致していない病気です。小児と大人で治療は異なります。小児の場合発見が遅れば弱視をきたしたり、立体感や遠近感などの両眼視機能の発達を損ねます。最近では保健所での小児の検診の充実で発見が早くなりましたが、なかには検診で漏れて就学時検診まで発見できないこともあります。小児の視機能は早くして3歳児検診ごろ、遅くとも就学時までは大人と同じ程度のところまで発達します。そして10歳ごろには発達を終了します。このため、早期発見、早期治療が重要となってきます。治療方法は眼鏡やアイパッチ(健眼遮閉)、手術等があります。最近の医療の発達に伴い増加してきた低出生体重児は斜視・弱視等の合併頻度が高いため、しつ

かりした眼科検診が必要となっています。

成人の斜視の場合は、多くは美容上の理由で治療を希望されますが、ときに複視や眼精疲労の原因となることもあり、このためにプリズム等の眼鏡や手術で治療することもあります。VDT作業の普及に伴い眼精疲労は眼の現代病の一つです。しかし、主訴は多様で目の疲れ以外にも、しょぼつき、くしゃつき、頭重感や強い場合は、嘔気や嘔吐を伴うこともありますので、注意が必要です。



調節性内斜視

写真のように著明な斜視の場合はペンライト等を固定させて角膜反射を見る検査法(Hirschberg法)で簡単に斜視の検査が行えます。

遠視に伴う内斜視で、眼鏡の矯正により眼位が正位になります。眼鏡を装着していないとき(上の写真)は右眼が内斜しています。

ドライアイと涙の検査

エアコンのきいた部屋、長いコンピュータ作業、コンタクトレンズ装用で、眼が充血する、眼が乾く、涙がでるといった症状はないでしょうか?最近、眼科を訪れる患者さんの中には、ドライアイの方が非常に増えています。ドライアイとは、涙の量が少なかったり、涙の重要な働き(黒目(角膜)の表面をくまなく覆う働き(涙の安定性)が失われて、涙に覆われなくなった細胞が乾いてはがれ落ち、目の表面に傷のある状態を意味します。そしてこの傷が、目の違和感、充血(結膜の炎症)、反射の涙(角膜の傷による)を引き起こすのです。

ドライアイの診断は、涙の検査(涙の量や涙の安定性)と目の表面の傷を調べる検査によってな

されますが、我々のところでは、たった10秒程度の目に触れない診察でドライアイを診断できる画期的な装置を開発しています。ドライアイの治療は、人工涙液を、できるだけ頻回に調子がよいときも点眼するのが基本となります。また、目の表面で長くとどまる点眼薬(ヒアルロン酸)や目の周りの湿度を高めるドライアイの専用めがねも治療に用いられています。さらに、涙が極端に少ないドライアイの最重症例(シェーグレン症候群)には、非常に効果的な治療として、涙点プラグによる涙点の閉鎖が行われるようになりました。

共同開発した涙の診断装置



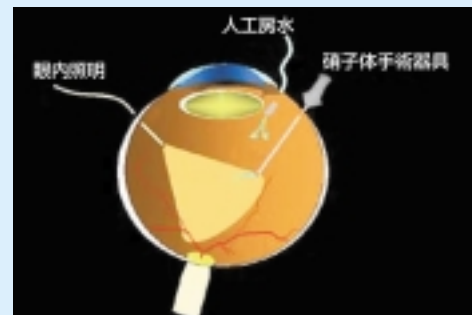
涙の量の減少や性質の異常を10秒以内に非侵襲的に診断できます。

今日の網膜剥離手術

網膜剥離には、中高齢者や近視の強い人に発症しやすい裂孔原性、糖尿病網膜症の増殖タイプに合併することがある牽引性、そして漿液性の3タイプがあります。いずれのタイプも昔は失明の原因となっていました。過去四半世紀における手術技術の発達の結果、今ではさまざまな網膜剥離で治療を成功に導く手段が得られるようになってきました。網膜剥離の治療は、剥離した感覚網膜を網膜色素上皮上に復位させ網膜裂孔を閉鎖させなければなりません。治療法を大別すると、強膜バックリング術と硝子体手術の2つがあります。基本的な治療法は強膜バックリング術で、眼球の外側から治す方法です。長所は、比較的安全に手術が行え、術後退院までの期間が短いところです。短所は、眼球に歪みが生じますので屈折値が変化することと術後硝子体混濁が増加した場合飛蚊症の訴えが強まることです。強膜バックリング術が

眼球を切開せず網膜剥離を外側から治す治療法であるのに対し、硝子体手術は眼球の内側から治す方法といえます。硝子体手術は、画期的な手術法で、手術適応も大幅に拡大しています。長所は、バックリング術での難治症例が適応となることです。短所は術後白内障の進行が加速することがありましたが、現在では同時手術を行いますので、特に問題となることはありません。症例に応じてこの2つの治療法を適切に選択することにより、現在では網膜復位率が95%を越えるまでになっています。

硝子体手術



20Gの強膜剣を3箇所あけ、人工房水灌流用カニューラ、照明用の光ファイバー、そして硝子体手術用の器具を入れます。硝子体手術器具としては、ゼリー状の硝子体を細かく切りながら吸い出す硝子体カッターのほか、網膜上に張った増殖膜を取り除く硝子体剪刀や鑷子、水を吸い出すストローの役目をする器具があり、必要に応じて替えていきます。